

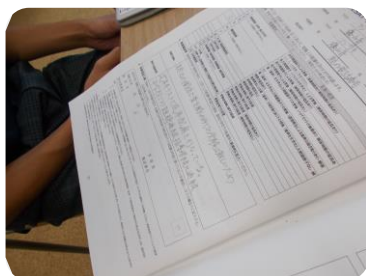


自立活動「ESAT-J」の配慮について確認しよう

校外生の三人は3年生になり、卒業後の進路について家族と相談する時期となりました。そこで、今月のグループでの自立活動ではESAT-J(中学校英語スピーキングテスト)の配慮申請にあたり、自分自身で調べる力をつけるためのワークシートとロールプレイに取り組みました。

配慮申請するにあたって、必要な情報を確認するために、実際にタブレットを使って生徒自身が検索してみると、「ESAT-J」配慮だけでは、昨年度の情報が出てしまい、生徒たちはそれぞれがよく考えて「令和8年度」を加えるなどして、東京都教育委員会のHPにたどり着き今年度の配慮申請の情報を見つけられました。様々な情報が飛び交う中で、自分が必要としている情報は何か考え選択する力、検索結果が本当に信頼できるものかどうか見極める力はとても大切です。

最後に、「実際に担任の先生に配慮申請をお願いするときどのように伝えるか」の、ロールプレイを行いました。メモなどを見ずに、堂々と丁寧な言葉遣いで話す姿からは難聴学級の最上級生としての自覚を強く感じさせられました。「お忙しいと思いますが」や「〇日までにお願いしたいのですが、よろしいでしょうか」といった表現は、大人になったときにも使えるコミュニケーションスキルです。ぜひ覚えて使えるようにしましょう。



進学や就職など人生の節目に行われることの多い「試験」では、配慮について自分自身で申請する力が必要です。「今はまだ中学生だから」と保護者や先生に任せるのではなく、「自分のことは自分で!」という意識をもって臨むことが、大人になってからの「生きる力」となります。今回のグループでの自立活動での経験を今後の生活に活かしていただきたいと思います。



～修学旅行の心得(こころえ)～



先週、修学旅行から帰ってきた3年生からは楽しかったお土産話をたくさん聞くことができました。その中で、難聴生の後輩たちが来年修学旅行に行くときに困らないようにと、優しい助言もあったので載せておきます。ぜひ参考にしてください。

- 其の壱、バスガイドさんの話が聞けるように座席は前にする
- 其の弐、お寺のじゃり道を歩く時は、ガイドさんのそばを歩く
- 其の参、タクシー移動では運転手さんの話が聞ける前の席がよい
- 其の肆、新幹線やバスの座席は先生の近くだと安心
- 其の伍、補聴器と予備の電池は絶対に忘れないようにする
- 其の陸、夜はすみやかに寝ること!!

通級の予定

- 【6月】18(木), 19(金), 25(木), 26(金)
- 【7月】1(水) 関東労災病院 9(木), 10(金), 15(木), 16(金)
- 【8月】26(水) 中学校交流会 &先輩の話を聞く会

日本からアフリカへ 難聴学級の旅✈

大学卒業後、都内の難聴学級に8年間勤めた私は、ご縁があってJICA 海外協力隊として西アフリカのガーナに派遣されました。幼稚園児から中学生まで250人ほどが通う学校で、その1教室にデフユニット（難聴学級）があり、6人のデフの生徒と2人の先生と共に過ごしました。

派遣前にもらった情報によれば、生徒は小学4年生～中学2年生の6名。しかし、実際にデフユニットに足を踏み入れた私の目にうつったのは、どうみても少年少女というよりは高校・大学生くらいの男女。そのうち1人はヒゲを生やしていました。「どうして大人が制服を着て教室にいるの？」と、私の頭の中はハテナだらけ。確かに、鞆から出した教科書は小学生・中学生のものでした。そこで「How old are you? (年はいくつ?)」と書きましたが、相づちを打つだけで、答えは返ってきませんでした。

後から同僚の先生に聞いたら、ガーナの教育制度では、試験に合格しないと進級できないため、デフユニットの生徒たちは年齢を重ねても試験に受からず、小学生や中学生の期間を、通常の生徒よりも長く過ごすというのです。彼らが試験に落ちるのは、決してLazy (怠惰) だからではなく、言葉を学ぶ機会に恵まれない彼らにとって、英語で書かれた試験問題を読みとくことは難しかったからでした。私の派遣された町は小さく、彼らに手話で学習を教えたり、英語の力を伸ばしてあげたりすることができる教育者はいなかったのです。そのため彼らは、「なにを食ってたか」「どこに行」
どのような生活に密着した会話を手話で話すことはできましたが、教科書を読むための英単語は、ほとんど理解していませんでした。

その頃ちょうど、日本で教えていた難聴の卒業生から「大学に合格しました。」と近況報告が届きました。同じ年齢、同じ障害でも進学のチャンスを掴むことのできる日本の難聴者と、小学生の教科書すら読むことのできるガーナの難聴者。生まれてきた場所によって、こんなにも差が生じることに、啞然としました。 (芳我)



～言の葉（ことのは）～

**「愚公移山（ぐこういざん）」*たゆまぬ努力を続けていれば、どんなことでも成し遂げられる
小さな努力の積み重ねは、必ずや自分の糧となり山をも動かす
大きな事業も成し遂げることができるだろう***

熱海には、来宮神社（きのみやじんじゃ）という神社があり、パワースポットとしても有名です。樹齢二千年を超える大きな楠（くすのき（には、圧倒されます。また、「大楠（おおくす）のこと葉みくじ」というおみくじがあり、大楠からのこと葉と楠のチップが入っています。

以前、私が訪れた際に手にしたおみくじに書かれていたのが「愚公移山」です。
この言葉は、中国の古典『列子（れっし）』の「愚公、山を移す」が由来です。



「中国の愚公という90歳の老人が、山の中に住んでいてとても不便なので、山を移そうと長い間努力をしていたところ神様が願いを聞いて山を移してくれた」という故事からきています。漢字が四文字並ぶだけで、毛嫌いしてしまう人もいるかもしれませんが、一見すると難しい言葉にこそ、先人たちの素晴らしい想いが込められています。そして、その言葉が今を生きる私たちに大切なことを教えてくれています。

私たちの生活の身近なところには、先人たちの残したたくさんの言葉があるので、ぜひ見つけてみてください。

■ ミニクイズ □ グランデュオ蒲田西館にある本屋さん

「有隣堂」はどんな昔の言葉が由来でしょう？答えはまた次回～😊

(田村)